

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立川口北高等学校 )

目指す学校像	知性と教養を身に付けるとともに、高い志と品格を備え、互いに高め合い敬意協力し合う、日本及び国際社会の進展に貢献する生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 自ら勉学に真摯に取り組む姿勢により学力の向上を図る。 2 満足度の高い生徒全員の進路希望の実現を図る。 3 文武両道の校風を堅持し、学業及び体力、精神力の充実を図る。 4 家庭、地域、小中学校との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年度評価(1月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>生徒の学力向上のために、授業改善・指導力向上に継続して、組織的に取り組む必要がある。</p> <p>そのために、校内授業公開、外部講師を招いた公開授業研究や各種研修会への参加等を通じて、さらなる授業改善・指導力向上を図る。</p> <p>また、自学自習オリエンテーション、SL-Timeや補講等を活用して、生徒の学習サイクルのより一層の定着に取り組む。</p>	教科指導力を向上させ、主体性を持って学ぶ態度を育成する。	<p>①より一層の授業力向上を図るため、授業公開、外部講師を活用した研究授業を実施する。</p> <p>②生徒の「学力の3要素」※を育成するための研究と実践に取り組む。</p> <p>③自学自習オリエンテーション等を通じて、徹底して自ら計画的に学習する習慣を定着させる。</p> <p>※【学力の3要素】          ① 知識・技能の確実な習得          ② ①を基にした) 思考力、判断力、表現力          ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p>	<p>①授業公開、外部講師を入れた研究授業の取組状況</p> <p>①学習状況調査の活用状況</p> <p>②アクティブラーニング等、指導方法の工夫・改善の状況</p> <p>②未来を拓く「学び」プロジェクト」の取組状況</p> <p>③授業以外の学習時間</p> <p>③予習・復習の取組状況</p>	<p>学校全体で、授業改善・教科指導力の向上と自ら学ぶ姿勢の醸成に取り組んだ。</p> <p>①授業研究週間を2回(6月、11月)及び職員研修会を1回(12月)実施した。</p> <p>①11月の授業研究週間には、県教委の授業支援訪問等を活用して、教科ごとに外部指導講師を招き、公開授業及び授業研究を行った。またその内容は研修会を通じて全教員で共有することで、指導力改善に役立てた。</p> <p>②東京大学CoREFと連携し、協調学習の実践、研究を進めた。</p>	A	<p>外部指導者を招いた授業研究は各教員の授業改善・指導力向上の良い機会となっている。優れた外部指導者の確保が課題となるが、次年度以降も継続して取り組む必要がある。</p> <p>各教室にプロジェクトが設置され、タブレット端末が配置されたので、ICTを効果的に利用した授業の研究・実践をさらに進めていく必要がある。</p> <p>希望進路実現のためには、授業を大切に、黄金サイクルをより一層確立する指導を継続する必要がある。</p>
2	<p>担任・学年・分掌・部活動顧問等が情報を共有し、連携して一人一人の生徒に応じた丁寧な指導をすることで、生徒の志を育み、進路意識を高めることに継続して取り組む必要がある。</p> <p>高大接続改革に係る調査書・提出書類等の見直しや大学入学共通テスト等の新たな入試制度への対応については、進路指導部内のプロジェクトチームを中心として、さらに研究・検討を進める。</p> <p>また、次期学習指導要領への対応について、教育課程委員会内にワーキンググループを立ち上げ、情報収集・研究を進め、進学校としての教育課程編成について全職員の共通理解を深める。</p>	高いレベルでの進路実現を確保する取組を充実させる。	<p>①キャリアブックを活用し、キャリア教育を充実させる。</p> <p>②各種補講を実施する。</p> <p>③模擬試験分析、受験校検討会を実施し、個に応じた指導を行う。</p> <p>④難関大セミナー、国公立大セミナー、県立大セミナーをさらに充実させる。</p> <p>⑤学習環境を充実させる。</p> <p>⑥新大学入試制度に対応した指導を研究、実施する。</p> <p>⑦新調査書への対応に関する研究を進める。</p> <p>⑧各種資格試験、公開講座、コンテスト等への受験・参加の情報提供と、ポートフォリオ作成に関する研究を進める。</p>	<p>①進路オリエンテーション、対話、三者面談などの実施状況</p> <p>①キャリアブックを活用した取組の実施状況</p> <p>②夏季補講計46講座、冬季補講計4講座、平常補講計32講座実施。</p> <p>③受験校検討会を実施(4回)し、きめ細かな指導を行った。</p> <p>④国公立大学受験者数197名 合格者数58名 早慶上理ICU合格者数12名 GMARCH合格者数73名(3月27日現在)</p> <p>⑤SLルームを土曜日27日、日曜日14日開室し、自学自習を支援した。</p> <p>⑥職員研修会を実施し、高大接続に関する研究を進め、共通理解を深めた。</p> <p>⑦⑧様々な活動の記録を蓄積し、ポートフォリオ作成の準備を進めた。</p>	<p>教科・学年・分掌が連携、協力し、教育活動全般を通じて希望進路の実現に取り組んだ。</p> <p>②夏季補講計46講座、冬季補講計4講座、平常補講計32講座実施。</p> <p>③受験校検討会を実施(4回)し、きめ細かな指導を行った。</p> <p>④国公立大学受験者数197名 合格者数58名 早慶上理ICU合格者数12名 GMARCH合格者数73名(3月27日現在)</p> <p>⑤SLルームを土曜日27日、日曜日14日開室し、自学自習を支援した。</p> <p>⑥職員研修会を実施し、高大接続に関する研究を進め、共通理解を深めた。</p> <p>⑦⑧様々な活動の記録を蓄積し、ポートフォリオ作成の準備を進めた。</p>	A	<p>二者対話、三者面談や受験校検討会等を通じて、今後も引き続き信頼関係に基づいた丁寧な指導を行う必要がある。</p> <p>高大接続改革に係る大学入学共通テストや民間の英語資格・検定試験については、最新情報の収集に努め、適切に対応できるよう、さらに研究を進める必要がある。</p> <p>キャリア掲示板を設置して各種公開講座、コンテスト等への参加を促したり、探究活動を推進したりしたが、今後はこれらの取組をさらに推進するとともに、ポートフォリオ作成を見据えて、様々な活動記録の蓄積方法等に関しても、継続して研究を進めていく必要がある。</p>
3	<p>凡事徹底の観点から、きめ細かく、粘り強い指導を継続していく必要がある。また、文武両道の校風を堅持し、学業及び体力、精神力の充実を図っていくため、全教職員が連携・協力して指導を行う必要がある。</p> <p>部活動の適切な活動時間や休養日の設定については、まだ十分とは言えない状況にある。効果的・効率的な活動計画を立て、生徒がバランスのとれた生活を送り、自律的に学習と部活動の両立ができるよう引き続き支援していく。</p>	自主的に生活管理や時間管理を行う態度を育成する。	<p>①挨拶・身だしなみ・物の管理などに対する意識をさらに定着させる。</p> <p>②生徒が自律的に学習と部活動の両立を図れる指導体制を確立し、生徒一人一人が自ら計画的に時間を管理する。</p> <p>③効果的・効率的な活動計画作成と適切な休養日設定をすることで学習との両立を図る。</p> <p>④生徒指導部を中心として、スマートフォンの使い方に関する啓発活動を実施する。</p> <p>⑤通学時の交通安全意識を高める。</p>	<p>①挨拶・服装・清掃の実施状況</p> <p>①ロッカーの施錠状況</p> <p>②部活動の加入率</p> <p>②部活動の実績</p> <p>②生徒の出席状況(遅刻数)</p> <p>②③部活動の活動状況や休養日の設定状況</p> <p>②③授業以外の学習時間</p> <p>④携帯電話、スマートフォンの校内・校外使用状況</p> <p>⑤交通安全指導実施状況</p>	<p>生徒は自己管理に努め、文武両道を実践した。</p> <p>②部活動加入率97.5%。囲碁・将棋部(個人)が全国大会出場、男子バスケットボール部・かるた部が関東大会出場を果たすなど、多くの運動部・文化部が活躍した。</p> <p>③バランスのとれた活動を行うため、「部活動に係る活動方針」の策定を進めた。</p> <p>⑤交通安全教室を実施し、グループワークを通じて生徒に自ら考えさせるなど、交通事故防止指導を行う。(3月実施)</p>	A	<p>自他の人権を守ろうとする意識の向上を図り、全ての生徒が安心して学校生活を送れるようにする必要がある。</p> <p>「部活動に係る活動方針」に従い、自律的に勉強と部活動の両立を図れるような指導体制を確立し、生徒各々が計画的に時間を管理することができ体制を整えていく必要がある。</p> <p>交通安全意識を向上させ、交通事故を防止するため、ヘルメットの着用を推進するなど、引き続き丁寧に指導を行っていく必要がある。</p>
4	<p>本校の魅力をより効果的に伝えるため、学校説明会等広報活動の内容の見直しと充実をしていく必要がある。</p> <p>地域や小中学校でのボランティア活動は徐々に多くの生徒が参加するようになってきており、ボランティア活動に対する意識も変わってきている。今年度はより一層学校全体での組織的な取組としていく。</p> <p>また、土曜授業実施日の公開方法等を工夫し、保護者や地域に開かれた信頼される学校づくりをより推進していく。</p>	積極的な情報提供と保護者・地域・小中学校との連携・協力を推進する。	<p>①教務部広報グループが中心となり、学校説明会の内容の改定と充実を図る。</p> <p>②学校の教育活動を積極的に発信するため、KAWAKITAキャンパス通信やホームページの内容を充実させる。</p> <p>③土曜授業実施日の公開方法を工夫する。</p> <p>③保護者と連携を密にし、PTA活動の一層の活性化を図る。</p> <p>④地元小中学校や地域との交流や、地域のボランティア活動の充実を図る。</p>	<p>①学校説明会、授業公開等の参加者数</p> <p>①学校見学会、上級学校訪問、塾・中学校主催説明会等の対応数</p> <p>②KAWAKITAキャンパス通信の発行回数</p> <p>②ホームページでの情報提供回数</p> <p>③メール配信による情報提供回数</p> <p>③行事などの保護者等の来校者数</p> <p>④小中学校や地域との連携回数</p>	<p>新たな連携を始めるなど、地域の小中学校との連携を強化した。</p> <p>①学校説明会に計2,580名参加があった。また、新たに部活動体験・見学会(8月)を実施し、本校の魅力を伝えた。</p> <p>②KAWAKITAキャンパス通信発行17回、川北ニュース等の更新42回、メール配信56回等、生徒の活躍等を積極的に伝えた。</p> <p>④吹奏楽部、生物部、書道部、水泳部、テニス部等のボランティアの他、新たに小中学校で延べ125名が学習ボランティアに参加した。</p>	B	<p>近隣の学校の開校により、生徒募集の環境は厳しくなっている。今後も、本校の教育活動の特色や魅力を伝えるため、広報活動をさらに工夫改善する必要がある。</p> <p>地域の小中学校と連携し、より多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加した。今後もさらに多くの教職員・生徒が参加することで、地域に貢献する、開かれた学校づくりを推進していく。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>教員の資質向上、授業改善のためには、絶えず組織として取組まなければならない。外部講師を招いての授業改善の取組みは良いが、これで終わらずに、校内全体の授業研究につなげる必要がある。プロジェクト等ICTを用いた授業はわかりやすくよい。授業以外の学習時間に関しては、生徒の理解度に即して、日々の課題や週末課題の量と質を考えていく必要がある。</p> <p>LHR、総合的な学習の時間等を用いた進路行事や進路情報の提供は充実しており、頻繁に面談等も実施されているので、進路指導面では生徒は大変恵まれている。土曜授業を実施していることで、平日にしっかりと進路指導の時間を確保できているという面もあるだろう。志望校研究に関しては、1年次の早い段階からしっかりと取り組む必要がある。また、希望進路実現のためには、それぞれが大学受験に向けて、主体的に学習するという姿勢が必要である。</p> <p>教室のロッカー施錠などの指導が徹底している。これらを1つ1つ実践していくことは学習にも効果がある。部活動でも結果を残しており、生徒は文武両道を目指して、しっかり活動できている。スマートフォンの指導に関しては、マナー向上のための啓発活動が行われているが、校内では触らせない等のもっと強い指導があってもよい。安全指導では、ヘルメット着用をより推進してほしい。</p> <p>学校説明会の内容は良いが、説明会に足を運ばず、HPだけ見て志望校選びをする受検生が増えている。本校の魅力を伝えるため、どうしたらもっとHPを見てもらえるか、より一層の工夫が必要である。ボランティア活動は活発に行われている。生徒が小中学生に対し、親切丁寧に対応しており、その姿勢はすばらしい。</p>	